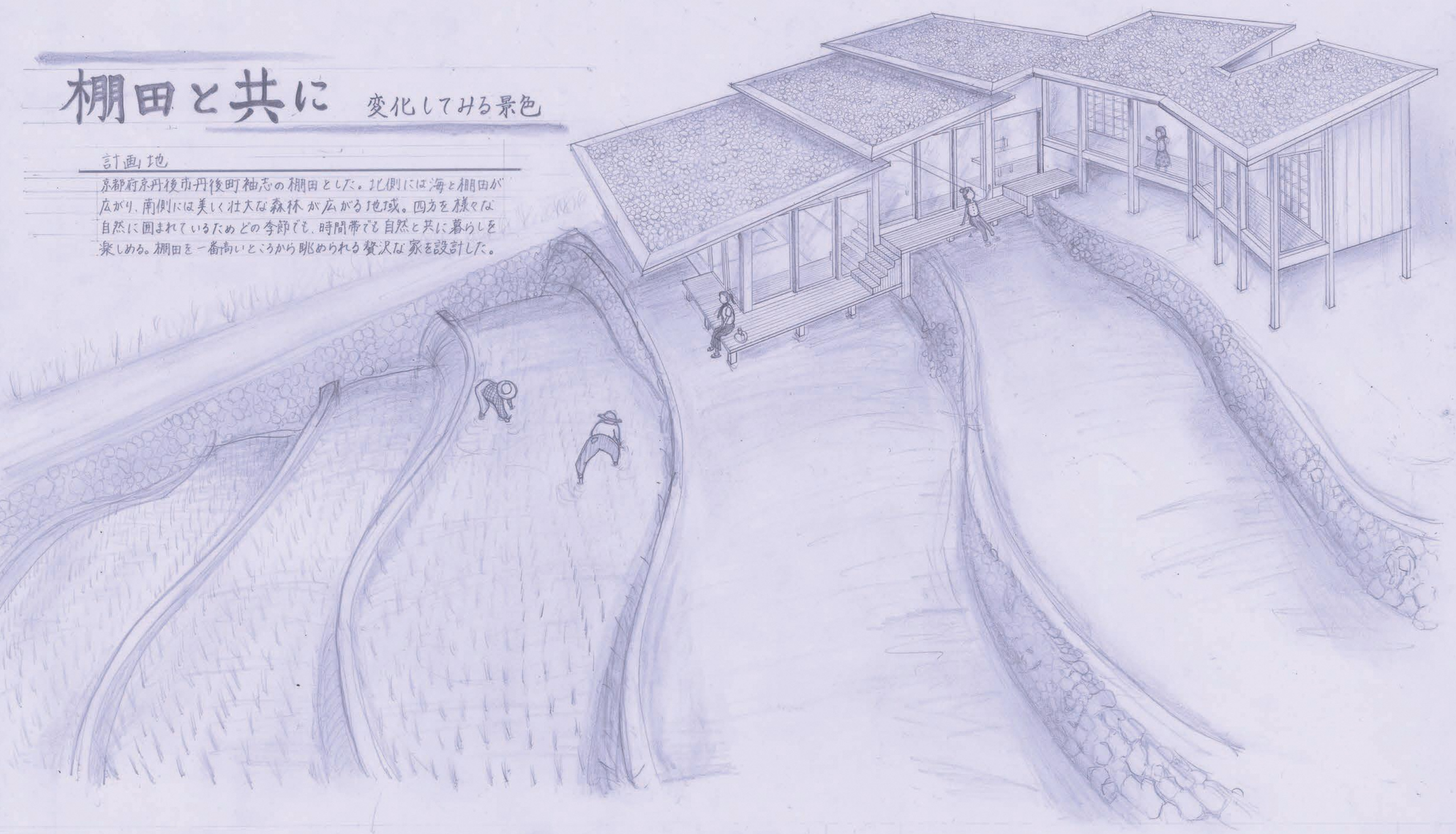
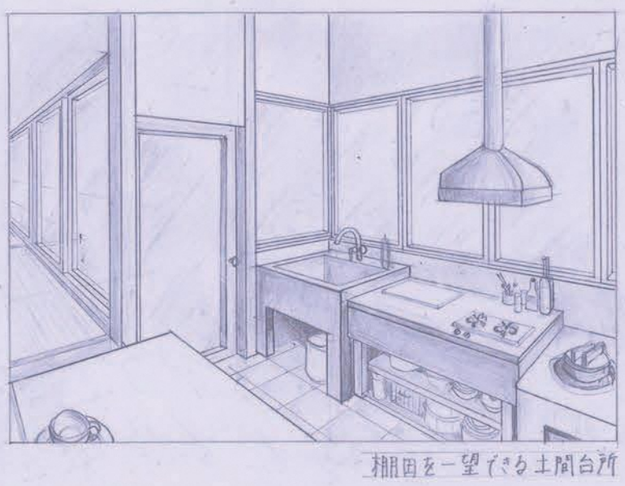
棚田と共に　変化してみる景色

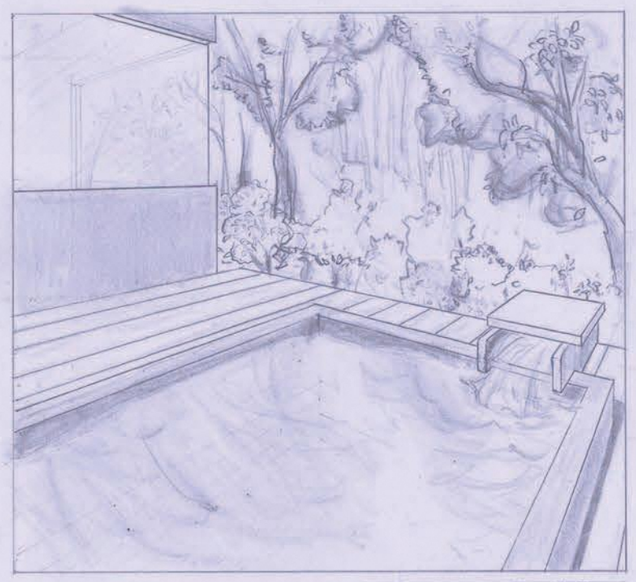
計画地

京都府京丹後市丹後町袖志の棚田とした。北側には海と棚田が広がり、南側には美しく壮大な森林が広がる地域。四方を様々な自然に囲まれているためどの季節でも、時間帯でも自然と共に暮らしを楽しめる。棚田を一番高いところから眺められる贅沢な家を設計した。

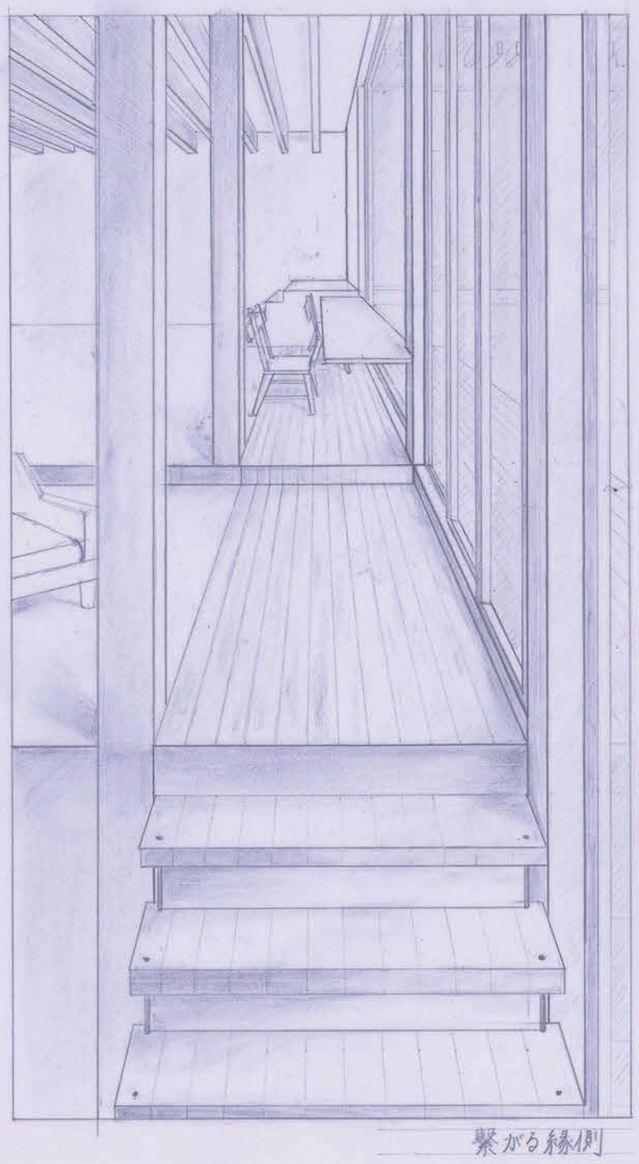




棚田を一望できる土間台所



露天風呂から見た景色



繋がる縁側

コンセプト「棚田と共に」

田は四季によって姿を変える。春は水が張られ、夏に向けて田植えが始まり、一面緑に、秋になると稲穂が黄色く染まるという風に、変化のある美しい自然風景を楽しめる。四季の変化、棚田の変化とともに、年月を経て、家の柱の木々は渋みを増し味を出す、子どもたちは成長する、そんな生活の変化とも共に暮らす家である。棚田だからこそ生み出せる空間の結びつき、人・地域との関わり、自然との境目のない繋がりのある家を目指した。

景色との調和

棚田の境目（段差）には石垣が組まれているものもあり、その石垣の風景に合わせて「石置き屋根」とした。屋根は棚田の段差やうねりの角度にあわせて設計し広がる景色と一体化させた。
外壁面は京都産のスギの木を板張りして、森林の木々が成長して上へ伸びるのと同じ縦方向に張りつける。

縁側

今回2種類の縁側を取り入れた。1つ目は外縁。外縁は内外の境目を和らげる効果があると考えられ、室内と屋外の一体化をはかる。そこにさらに内縁を設けることで、半屋外的空間が実現できる。居間から子供部屋までつながる外縁と内縁の間のガラス戸を全部開ければ、内縁と外縁が繋がり大きな縁側とすることも可能。

米農家における土間の役割

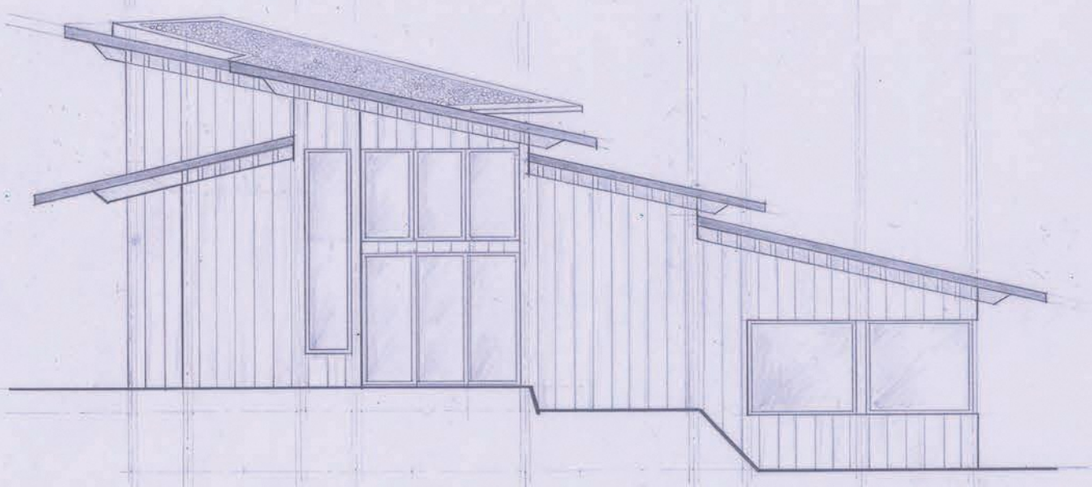
米を育てながら農家で暮らすということで生活の流れを考えてみた。

炎天下で作業 → 休憩 → 靴を脱ぎ履きすることなくキッチンに向かいお茶を飲む。

冬場に作業 → 暖を取る → キッチンで手を洗い そのまま暖炉へ

作業終了 → 泥まみれ → 風呂場まで 室内に上がらずに向かうことができる。

土間を有効に取り入れ米農家での暮らしを実現する。



東側立面図　S=1:100

北側立面図 S=1:100

景色の変化

棚田の段差を利用して、フロア空間を分けた。屋根は一定の間隔で3段階にすることで、一定ではない床高の差により天井高の異なる居住空間を形成。天井の低い居間やダイニングは落ちつきのある空間、天井の高い子供部屋は開放的な空間となり、室内自体の景色が変化する。

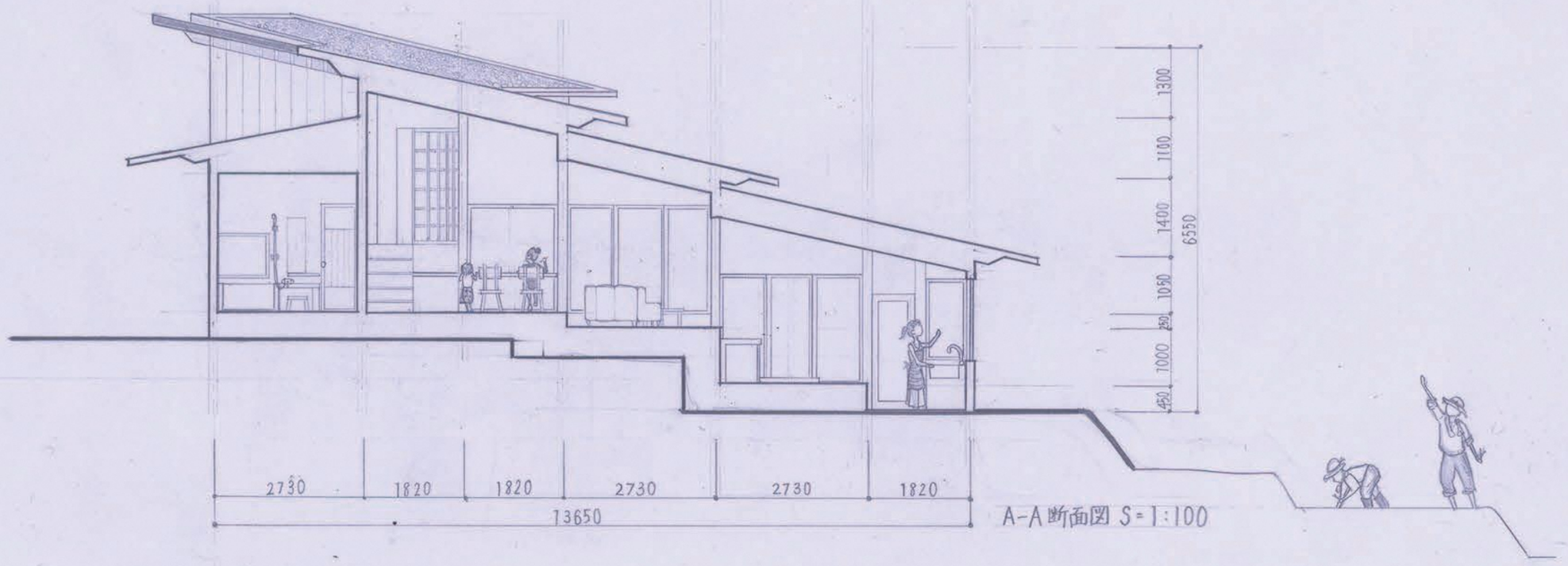
方角でも見える景色が変わる。

北・棚田に面してキッチン開口部を設けることで料理という毎日の作業の中でナチュラルに景色を見る機会を取り入れる。

東・玄関を設け子供たちが朝学校に行く際、出勤の際、1日の1番初めに玄関扉をあけると朝日が差し込み明るい景色が広がる。

南・壮大な森林が広がる南側に私的空間である寝室や露天風呂を設けた。リラックス効果のある森林の景色で疲れを取る。

西・海に沈む夕日が一望できるよう開口部を大きく、多く取り入れた。

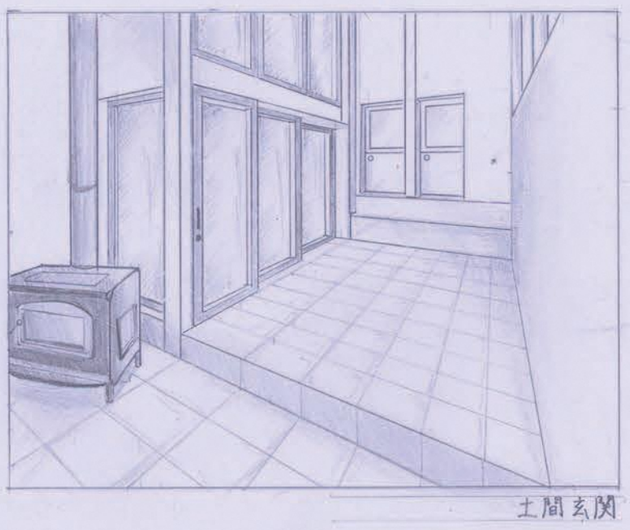


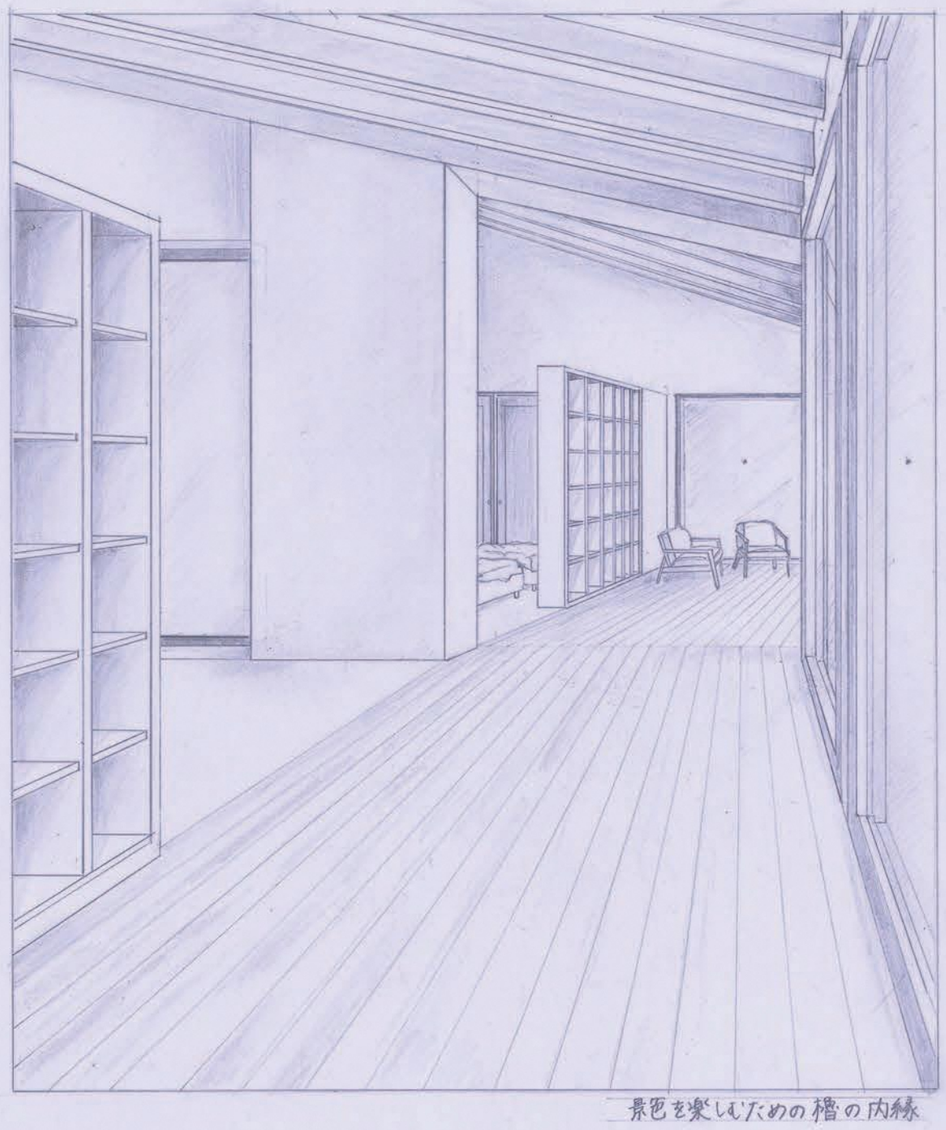
A-A断面図 S=1:100

自然と共に

自然に優しく、電気を使わない生活を送るために、暖炉や釜戸、囲炉裏を取り入れて、木の恵みである薪を使い、暖を取ったり、食事をすることで、カーボンニュートラルを実現する。

自然と一体化、自然に溶けこむ暮らしのために半屋外的・半屋内的空間として、土間や縁側を活用し、自然の中で暮らすということを実感できる。「そと」と「うち」の境界を感じない家を目指す。

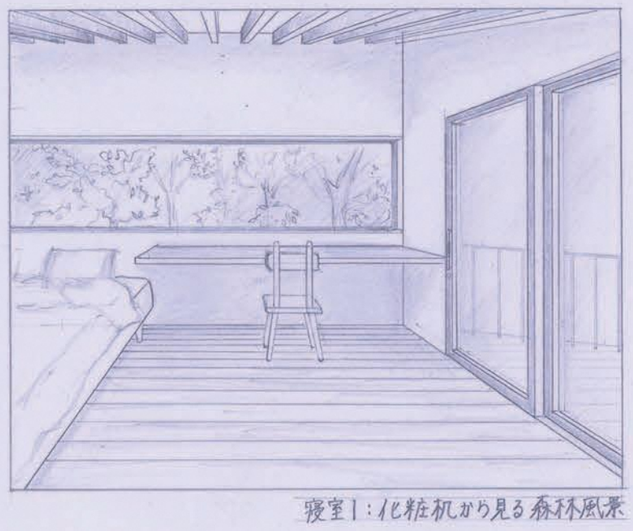

土間玄関


景色を楽しむための櫓の内縁

家族と共に

家族の存在・気配を感じられるように子供部屋から居間までの空間は段差や柱で仕切り壁や扉を使わず、縦の繋がりを持たせた。また、内縁を中心に居間・客間・子供部屋の縦空間と、寝室1・寝室2の横空間を内向きにすることで、どの部屋にいても、家族の様子が分かるようになっている。

私的な空間が景色優先で失われてしまわないよう、それぞれの寝室前に格子棚をもうける。インテリアとして使用するだけではなく、光を取り入れながら、他者の視界を遮ぎり落ちつく空間を形成する。

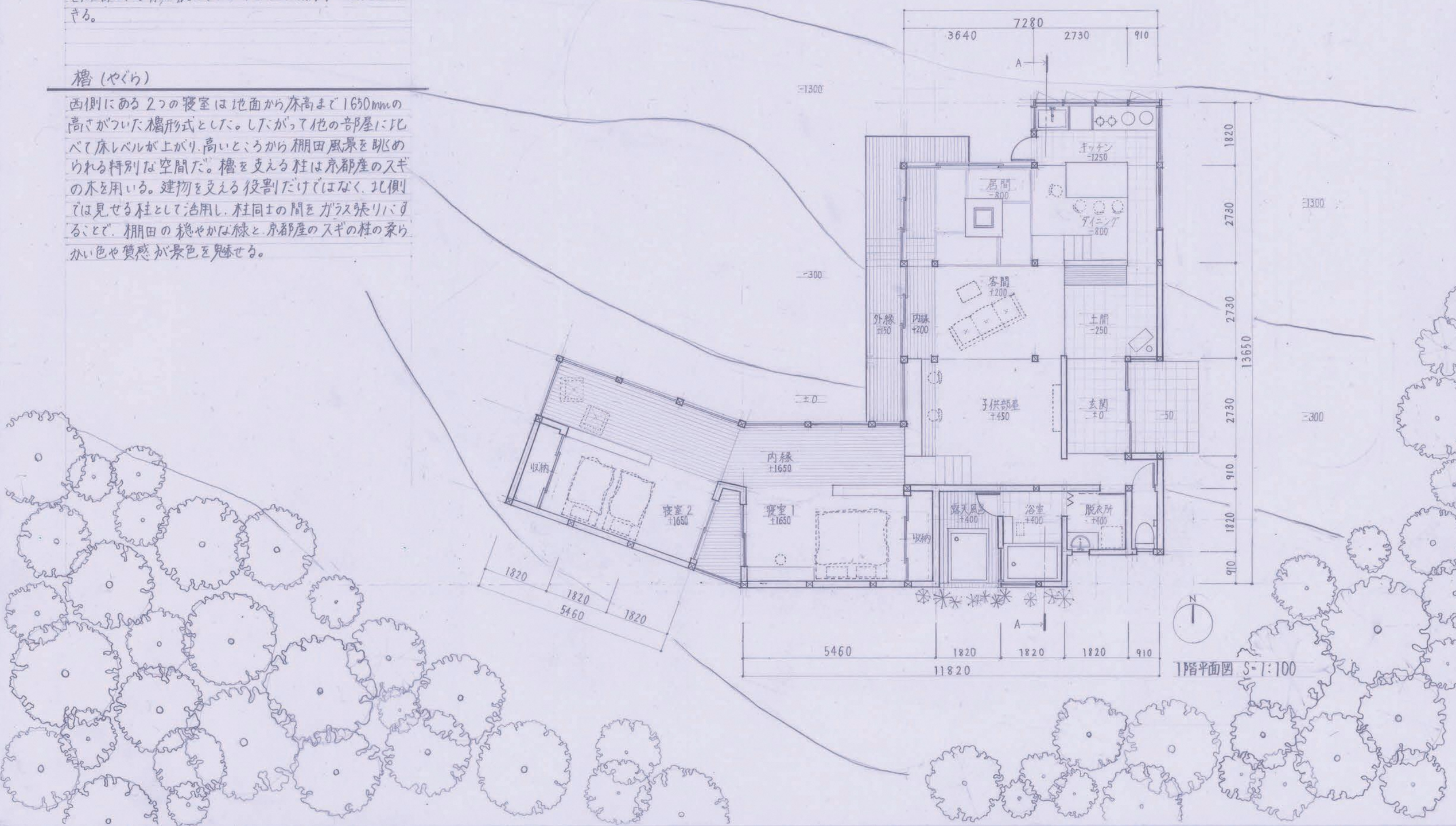

寝室1：化粧机から見る森林風景

地域と共に

米農家で暮らす人は、田植えや稲刈りといった行事の際、自分達の田だけではなく、他の人の田も含めみんなで協力して作業する、そういう姿が想像される。この家は、協力に来た親戚、友人、近隣の人まで気軽に休める憩いの場として、縁側がある。さらに玄関入ってすぐの土間空間には、コミュニケーションの場として、近隣の方が野菜を持ってきてくれた時や、ちょっとした世間話を楽しめられるようにベンチスペースを確保した。靴を脱いで上がらなくても腰掛けることができる。

櫓（やぐら）

西側にある2つの寝室は地面から床高まで1650mmの高さがついた櫓形式とした。したがって他の部屋に比べて床レベルが上がり、高いところから棚田風景を眺められる特別な空間だ。櫓を支える柱は京都産のスギの木を用いる。建物を支える役割だけではなく、北側では見せる柱として活用し、柱同士の間をガラス張りにすることで、棚田の穏やかな緑と京都産のスギの柱の柔らかい色や質感が景色を魅せる。



1階平面図 S=1:100